

福岡県の主な農産物の生産状況

平成 29 年 1 月 13 日現在
(専技情報より抜粋)

◇麦類◇

播種適期である 12 月上旬までに 8 割の播種が終了しました。12 月以降の気温が高く生育が早まり、11 月下旬播きは 4～5 葉期、現在は麦踏み、土入れが行われています。12 月上旬播きは 2～3 葉期で、これから麦踏み、土入れが行われます。播種後の高温多雨により雑草の発生が多くなっています。排水対策、雑草対策を徹底しましょう。

◇施設キュウリ◇

促成作型(10 月定植)では、高夜温、寡日照で経過したため軟弱気味に生育していましたが、年末からの好天により草勢は回復してきました。施設内の多湿条件により灰色かび病、菌核病が増加傾向です。コナジラミ類がやや多く、アザミウマ類も発生し始めています。半促成作型は 1 月中旬から順次定植が始まる予定です。ハウス内温度の確保、こまめなかん水、炭酸ガス施用等により草勢を維持しましょう。病害発生抑制のため、草勢や温湿度管理に注意しましょう。

◇冬春ナス◇

11、12 月が高夜温、寡日照で経過したため軟弱気味に生育していましたが、現在着果が少なく、年末からの好天により草勢は回復し、芽の動きも良くなっています。施設内の多湿によるすすかび病、灰色かび病が少発生しています。コナジラミ類、アザミウマ類が一部で発生しています。2 月中旬までに不要な芽を整理し、生育促進のため、ハウスの保温性向上に努め夜温を確保するとともに、昼間のハウス内気温を 28～30℃に保ちましょう。多湿条件にならないよう管理し、病害対策を行いましょう。

◇温州ミカン◇

普通温州を出荷中です。果実品質は糖度が平年並で減酸が早く、出荷量は平年並の見込みです。貯蔵果実の出荷は 3 月までの予定です。1 月上旬までの温州ミカン全体の出荷進捗率は 9 割程度です。貯蔵果実の管理は庫内温度 3～5℃、湿度 85%を目安に、天候や果皮の状態に応じて換気を行いましょう。定期的に庫内を見回り、腐敗果の除去を徹底しまししょう。

◇カキ◇

生果の出荷は12月12日で終了し、引き続き冷蔵柿が出荷中です。冷蔵柿の入庫量は少なかった前年並の2,100t（平年比9割程度）で、1月上旬までに3割程度が出荷済です。現在せん定作業が行われており、全体的に花芽着生は概ね良好です。せん定時には、昨年着果量が多かった樹や、夏季の過乾燥により樹勢低下した樹では雌花確保のため、充実した母枝の確保に努めましょう。

◇トルコギキョウ◇

秋出荷作型（10～11月出荷）はブラッシング（花蕾の枯死）により、出荷期が遅延し、出荷量が減少しました。春出荷作型（3～4月出荷）は、概ね順調に生育が進んでおり、9月定植分は2次小花、10月定植分は1次小花が発蕾しています。10月定植分は早めに1次小花を取り除き、不必要な側枝を除去して、ブラッシング対策を徹底しましょう。灰色かび病を防ぐため、換気、湿度管理など対策を徹底しましょう。

◇肉用牛◇

12月の枝肉価格は、前年よりやや低いですが過去5年平均に比べると高い水準で推移しています。厳寒期となり子牛の防寒対策を徹底しましょう。舎内消毒等、農場の衛生管理を徹底しましょう。